



『ぼくは眠れない』

新潮社 椎名誠 778円

毎夜同じ時刻に目が覚めて、眠れないまま朝になる。70歳にして探険旅行に挑み、ビールだけは欠かさぬ豪快さの持ち主には35年にわたる孤独な「タタカイ」があった。発端となった独立騒動、はかられた精神科受診、手放せない睡眠薬、スーカ事件のトラウマ、眠気をさそう試行錯誤等を初めて告白。果たして「やわらかな眠り」は取り戻せるか。

『認知症の「真実」』

講談社 東田勉 864円

「認知症」は医学的な定義や診断基準がきわめて曖昧だ。症状や治療法も大きく異なるが、診断する医者側に知識が不足しており、症状を悪化させるケースが後を絶たない。本書は、認知症の家族を幾人も取材し、医療の専門家、介護の専門家の意見と実践も併せて紹介。これは誤った認知症医療に対する警告であり、正しく認知症と向き合う途を示す希望の書である。



『跳びはねる思考』

イース・プレス 東田直樹 1,404円

人生とは、運命とは、幸せとは。「生きる」ことの本質を、鋭く、清冽な言葉で考えつくした、驚異のエッセイ。「ひとりの22歳の人間」として書いたエッセイ37本と、素顔が垣間見えるインタビュー4本を掲載。何度でも読み返したくなる、珠玉の一冊。

『子どもたちが身を乗り出して聞く
道徳の話』

致知出版社 平光雄 1,620円

教師歴32年、問題を抱えた子どもたちを次々と立ち直らせてきた伝説の小学校教師が語る実践的道德教育。

『大人の錯視入門』

宝島社 1,080円

だまし絵や古典的な色やサイズに関する錯視から不可能立体、フラクタル錯視など最新の研究成果まで幅広く紹介。「見えないはずのものが見える」「動いていないはずなのに動いて見える」——クセになる独特の感覚を生み出す錯視作品の魅力を伝える。



『たった3泊4日で行ける世界の絶景・楽園ガイド』

宝島社 週末海外研究会 1,404円

この本では「仕事が忙しくても海外旅行に行く」を実践している旅のプロが選んだ、2泊や3泊でも楽しめる絶景・楽園への旅を、多くのカラー写真と共に紹介。巻末には、本書スタッフによるオススメ航空券ランキングも掲載。

『ブルネイでバドミントンばかりしていたら、
なぜか王様と知り合いになった。』

集英社 大河内博 1,728円

世界一リッチな王国ブルネイの大使館に赴任したが、失敗と挫折の連続にダウン寸前。そんな中、ストレス解消で始めたのが中学時代に夢中になったバドミントンだった——。笑い涙のノンフィクション。

『ありがとうは僕の耳にこだまする』

KADOKAWA 東田直樹 1,512円

重度の自閉症者でありながら文字盤やパソコンを使って会話や執筆を行う東田直樹。著書が世界的ベストセラーとなり、NHKのドキュメンタリー番組でも話題の著者が、最も好きで長く書き続けてきた「詩」の世界。

『フランス人は10着しか服を持たない』

大和書房 ジェニファー・L・スコット/神崎朗 1,512円

間食はせず、食事を存分に楽しむ。上質な物を少しだけ持ち、大切に使う。日常の中に、ささやかな喜びを見つける。フランス貴族の家にホームステイした著者が、パリで学んだ上質な生き方を紹介。

『心に効く話』 発売予定日 2015年1月21日

PHP研究所 轡田隆史 予価 1,188円

月刊『PHP』に毎月熱心な感想が寄せられる人気連載を書籍化。季節感あふれるお話は、スピーチや手紙・メールのお手本にも最適。



学校名 _____

先生名 _____

★オンラインでの注文も可能です★
e-hon → <http://www.e-hon.ne.jp>

